新聞記事における逆接の接続詞の文体混用について

鐘　紫儀

1. はじめに

日本語の接続詞の使用が文体と関わることはこれまで指摘されてきた（田中1984、馬場2018）。柏野他（2016）は、書き言葉と話し言葉の文体差についての表現を抽出し、逆接の接続詞のうち「しかし」と「だが」は「書き言葉的」として、「でも」は「話し言葉的」として取り上げられた件数が多いとしている。一方で、塩澤（2003）、栗原（2007）は、書き言葉的な新聞記事における話し言葉的な接続詞「でも」「なのに」の使用を指摘しており、一般的な使用傾向と異なる使用が存在することを示している。

例えば、(1) の『朝日新聞』の記事では、話し言葉的な接続詞「でも」の使用が見られる。このような場合、接続詞の話し言葉的な「でも」と書き言葉的な「だが」が混用されていることになる。

(1)　同県はドイツとの行き来が盛んで、日常的に国境を越えて働く人は1万6千人、学校に通う子どもたちは2千人に上る。だが、ドイツに渡れるのは、48時間以内の検査で陰性と判明した人だけになった。（中略）

　ソトさんの希望は、ワクチン接種が進んで国境がもとに戻ること。でも、変異株の猛威を前に慎重だ。「期待は絶望を生むから」（2021年4月4日朝刊　1外報）

このような例があることから、一つの新聞記事において、文体的特徴の異なる接続詞が同時に出現する場合があることが分かる。接続詞が文体の制限から逸脱する現象を指摘した先行研究はあるが、その逸脱の原因は解明されていない。このため、接続詞の文体混用の実態についてより詳細に検討する必要がある。

2. 先行研究

日本語における文体混用についての研究は多く、例えば「です・ます」体と「だ・である」体の混用に関するものがある。メイナード（2004）は、文末のスタイルの選択は言語主体の表現意図と関係しており、表現の差が生じる原因は書き手の視座が違うためであるとしている。このように、スタイルの選択と文体混用については文末表現の混用を中心に研究されてきたが、結束性を担う接続詞がどのような文章構成上の要素に基づいて使用され、どのような要因により文体混用が起こるのかについての検討は少ない。

一方、文章における接続詞の使用について、石黒（2008）では、「でも」は「内面の告白をうまく表現できる面があり、それを活かして書き言葉に使われることもあります」

と述べている（同:79）。甲田（2001）は、意志・感情の所在に制限がある接続詞は物語の叙法の区分に有効であることを示している。しかし、石黒（2008）で挙げられた用例と甲田（2001）の分析対象は小説であるため、小説とはジャンルが異なる新聞記事における接続詞の使用と叙法との関わりについては検討する余地があると考えられる。

そこで、本研究では、接続詞の文体混用を「一つの文章において、異なる文体的特徴を持つ接続詞が同時に出現すること」と定義したうえで、逆接の接続詞の文体混用が見られる記事のコンテクストを検討し、新聞記事における逆接の接続詞の文体混用の原因を明らかにする。

3. 調査

3.1 新聞記事における逆接の接続詞の使用の予備調査

新聞記事における逆接の接続詞の使用を見るため、朝日新聞のオンライン記事検索データベース「聞蔵Ⅱビジュアル for Libraries」を利用し、「朝日新聞」の2021年1月1日から2021年6月30日までの6か月間の97,071件の記事を対象として、新聞記事における逆接の接続詞を検索した。なお、システムの都合上、「でも」だけで検索すると、得られる用例に助詞の「でも」が含まれてしまい、接続詞として使われる「でも」を抽出するのが難しいため、「。でも」のように句点を含む「。接続詞」という形式で検索を行った。また、検索対象とする接続詞の選択には、逆接の接続詞の文体情報を表す指標であり、形式性・親疎性を問う馬場（2018）の「硬度」の数値を併せて用い、文体差が存在する逆接の接続詞を選択することとした。各接続詞の硬度と使用数を表1に示す。

表1　新聞記事における逆接の接続詞の使用数

硬度（平均値）（小数点第２位を四捨五入した）													
用法	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1
逆接				しかしながら（13）			**しかし（3593）**	**だが（4362）** ところが（547）	が（326） それでも（1468）	けれど（147）	ですが（86）	**でも（2335）** なのに（100）	けど（23） だって（43） だけれど（1）
文体情報	**2.526以下** 「書き言葉的」な語として学術的文章での使用に特に問題がない語						**2.571以上2.730以下** 「書き言葉的」な語と比較的はっきり位置づけられる			**2.775以上** 「話し言葉的」な語と比較的はっきり位置づけられる			

表1を見ると、新聞記事では、「だが」「しかし」「でも」の使用が多い。そこで、出現頻度が高く、かつ硬度の平均値の差が存在する接続詞として、書き言葉的な「だが」「しかし」と先行研究でも言及されている話し言葉的な「でも」「なのに」を調査対象とした。

3.2 検索方法

新聞記事において、書き言葉的な「だが」「しかし」と話し言葉的な「でも」「なのに」の混用が見られる記事を収集する。検索は以下の条件で行った。（＆＝AND；＃＝NOT）

a.　。でも ＆ 。だが　＃　しかし　　d.　。なのに ＆ 。だが　＃　しかし

b.　。でも ＆ しかし ＃　。だが　　e.　。なのに ＆ しかし ＃　。だが
c.　。でも ＆ しかし ＆　。だが　　f.　。なのに ＆ しかし ＆　。だが

4. 逆接の接続詞の文体混用の考察

4.1 逆接の接続詞の文体混用が出現する形式

新聞記事において、引用の「」や、記事の最後に「（聞き手・取材者の名前）」という表示があるインタビューの内容は被取材者の発言の内容である。そのため、形式上、引用符などの発言提示のマーカーが見られる内容を「会話文」、見られない内容を「地の文」として扱う。すると、収集した記事において逆接の接続詞の文体混用が見られる場合は、接続詞がともに地の文に出現する場合、地の文と会話文に分かれて出現する場合、ともに会話文に出現する場合、という3種類に大きく分けられる。本データにおける、それぞれの場合の接続詞の具体的な形式と出現記事数を表2に示す。

表2　逆接の接続詞の文体混用の形式と出現記事数

文体混用形式	でも・だが	でも・しかし	でも・だが・しかし	なのに・だが	なのに・しかし	なのに・だが・しかし
地の文と会話文	125	87	24	3	4	0
地の文	78	125	13	7	8	2
会話文	3	37	1	0	0	0
合計	206	249	38	10	12	2

地の文と会話文のそれぞれで出現する場合では、主に次の（2）のように、書き言葉的な「だが」が記事の地の文に出現しており、話し言葉的な「でも」が当事者としての人物（「店長の男性（47）」）の話の直接引用に出現するような場合で用いられる。

（2）　宣言の再延長が決まった28日夜、東京・新宿にある老舗居酒屋は、酒類の提供も含めて通常通り営業していた。3度目の宣言が始まった4月25日から2週間は要請に従い、休業していた。だが、大型連休明け、1回目の延長期間が始まった今月12日から、営業を元に戻した。

　店長の男性（47）は「短期集中ということではじめは協力した。でも、ゴールが見えない。約30人の従業員と店を守るには店を開けるしかない」と話す。

（2021年5月29日朝刊　3総合）

（2）では、「だが」は宣言の延長期間中に営業を元に戻したという事象を説明する内容に出現しており、話し言葉的な「でも」は「店長の男性（47）」の発言の内容に出現している。本来、引用の内容は被取材者の話であるため、話し言葉的な表現が出現しても違和感がないと考えられる。

しかし、次の（3）のように、書き言葉的な「だが」と話し言葉的な「でも」が同時に記事の地の文に出現する場合も見られる。

（3）　ウォッカが容易に買えるようになったソ連時代にはサマゴンづくりも一時、衰退した。だが、国民のアルコール消費量を抑えようとしたゴルバチョフ政権が

1985年、ウォッカの値段を2倍に引き上げ、販売時間も制限する厳しい禁酒キャンペーンを始めると、再び盛んに。（中略）

パーベルさんには夢がある。「濃厚で芳醇（ほうじゅん）な香りが刻々と変化し、いつまでも口の中に余韻が残る、そんなサマゴンをつくること」だという。でも、道のりはまだまだ遠い。発酵や蒸留の温度や時間、素材と酵母の組み合わせ……。出来を左右する要素は多岐にわたる。　（2021年5月15日夕刊　夕刊F土曜3面）

（3）では、「だが」は書き手が「サマゴン」の背景を概略的に紹介する内容に出現し、「でも」は「パーベルさん」の内面的感情を詳しく表現する内容に出現している。地の文においても、事象の外部と内部からの内容が混在していると言える。

このように、書き手は取材を文章化する時に、事象の場面を描写する、事象を書き手あるいは当事者の目から捉えるといった様々な方法を用いる。引用符「」内では、ほとんど話し言葉的な「でも」が使用されるため、本研究では地の文に出現する逆接の接続詞の文体混用に注目し、文の表現形態の違いを基準として、逆接の接続詞の使用を分析する。

4.2　地の文における逆接の接続詞の文体混用

地の文で逆接の接続詞の文体混用が出現する記事の特徴として、書き手の意見・感情の内容や当事者の言動を引用する内容が見られることが挙げられる。そのため、地の文における逆接の接続詞の文体混用を分析する際に、読者の投稿、評論などのような書き手の立場で語る記事と、事象に対する人々の対応、感想などを示す当事者の言動が出現する記事に分けて分析を行った。書き手の立場で語る記事と当事者の言動を含む記事について、逆接の接続詞の文体混用が多く出現する面名（上位の3位）と出現する記事数を表3に示す。

表3　地の文における逆接の接続詞の文体混用が多く出現する面名と出現数

記事種類	だが		しかし		でも		なのに	
	面名	数	面名	数	面名	数	面名	数
書き手の立場で語る	オピニオン	7	オピニオン	31	地方	33	オピニオン	3
	地方	5	地方	27	オピニオン	28	週末be	1
	夕刊/総合	2	週末be	4	週末be	5		
当事者の言動を含む	地方	43	地方	35	地方	68	国際	3
	社会	17	社会	18	社会	26	スポーツ	3
	国際	13	国際	9	夕刊	11	地方/社会/夕刊	2
合計	121		161		226		17	

表3を見ると、書き手の視点からの文体混用は、特にオピニオン面と地方面に出現する傾向がある。当事者の言動が含まれる記事における文体混用は、地方面と社会面に出現する場合が多い。地方面、社会面、オピニオン面の記事の内容は、主に、生活情報、社会問題に関わることで、読み手にとって身近な内容であるため、読み手の共感を得られやすい。そのため、社会、生活に関する話題の記事では、文体の統一や書き手のプレゼンスよりも、読み手への接近や記事内容への共感を示すことが書き手に求められると考えられる。次はこの二つの内容が含まれる記事における逆接の接続詞の混用

について具体的に考察する。

4.3 逆接の接続詞の文体選択と書き手の叙述の立場

書き手の視点で語る内容には、書き手がモダリティ、感情感覚的表現、思考認識的表現によって自分の意見・感情という「内的態度」を表す内容と、現実に発生する事象という「外的事象」を示す内容が見られる。以下の (4) のように、逆接の接続詞の後続文に示す内容に違いが見られる。

(4) パンデミックによる不確実性の時代に育つ世代は、早くも「ロスト・ジェネレーション」と呼ばれている。だが、その世代を支える方法が、授業時間の延長とメンタルヘルスのケアの拡充だけであろうはずがない。子どもたちは以前からSOSを発していた。なのに大人たちはその声に耳を傾けることを後回しにしてきた。だからこそ、「ロスト・ジェネレーション」問題は、教育そのものを考え、変える契機になり得る。 (2021年6月10日朝刊　オピニオン1)

(4) は書き手の立場から書いた内容である。「だが」の後続文は、書き手が「ロスト・ジェネレーション世代を支える方法」に関する自分の意見を示す内容であり、「なのに」の後続文は、「大人たちはその声に耳を傾けることを後回しにしてきた」という現実の事象を示す内容である。このように、逆接の接続詞の使用はその後続文に示している内容と関わりがあることが予想される。なお、読者の投稿、評論などには文体の個人差が生じやすいため、書き手の立場をさらに「記者の立場」と「投稿者の立場」に分けて調査を行った。接続詞の後続文の内容と例数を表4に示す。「(　)」内は丁寧形の文の数である。

表4　逆接の接続詞の後続文の内容と例数

視点の位置	後続文の内容	だが	しかし	でも	なのに
記者の立場	外的事象	38	51(3)	15	6
	内的態度	14	18(2)	36(9)	2
投稿者の立場	外的事象	4	25(11)	19(9)	0
	内的態度	6	29(15)	48(18)	2(1)
合計		62	123	118	10

表4のように、記者の立場において、「だが」「しかし」「なのに」は記者が外的事象を提示する時に出現する傾向が見られ、「でも」は記者が内的態度を提示する時に出現する傾向が見られる。「しかし」は記者と投稿者の記事ともに出現数が多いため、書き手の立場で語る際に、記事の文体の規範にそった書き言葉的な「しかし」が使われやすいのだろう。また (5) のように出来事に関する書き手の態度と主張を示す内容も含んでおり、読み手に主張を納得させるため、読み手との距離を調整する意識が反映される文末の普通体と丁寧体が切り替えられる現象が見られる。

(5) どんなリバウンドにも飛び込む。常に選手同士で声を掛け合う。難しいことじゃないけれど、長年バスケットを経験していく中でおろそかにしてしまいがちなこと。しかし、本当に強いチームはこの基礎中の基礎を終始徹底しています。

(2021年5月22日朝刊　愛知・地域総合)

4.4 逆接の接続詞の文体選択と当事者の言動の引用形式

一方、記事に当事者の言動が含まれる場合、(6) のように、当事者の発話、思考などの引用の仕方によって、使用される逆接の接続詞に違いが見られる。

(6)「嫁」や「母」だけでない自分らしい生き方を望む女性を応援する取り組みが商店街の活性化のための活動と捉えられることもある。だが塩原さん自身は「街を変えてやろうなんて思ってない。私たちの苦しさをなんとかしたかっただけ」と笑う。(中略) 今はSNSが発達し、人と人が簡単につながれる。でも、今の時代なりの壁や苦しさもあると思う。だから若い人には、諦めずにもがいてほしい。「きっと共感してくれる人はいるはずだから」　(2021年2月4日朝刊　茨城全県・2地方)

(6) の「だが」と「でも」は共に地の文に出現している。「だが」の後続文では、引用符を使用して、当事者「塩原さん」の発話を直接引用している。「でも」の後続文では、「塩原さん」の思考の内容を提示しているが、引用符を使用せず、地の文に溶け込む形式で引用されている。

このように、当事者の言動を含む記事には、当事者の発言と思考の直接、間接の引用があり、さらに、当事者の発言の引用の仕方によって、逆接の接続詞の使用に違いが見られる。小説において、登場人物の発言、思考を引用する時の表現方法を「話法」という。次に、英語の話法を詳細に検討したLeech & Short (1981) [1] の話法の分類を参考にし、新聞記事における逆接の接続詞の文体選択と、当事者の発言と思考の引用の仕方について考察する。直接話法は「「発話内容」＋伝達節」という形式で、情報源としての当事者の発言をそのまま引用することであり、間接話法は、引用符を使用せず、三人称で書き手の視点・言葉で発話者の発話内容を表現することである。「自由」というのは、「と言う」のような伝達節が省略されて、より自由な形で引用する形式である。逆接の接続詞の後続文の話法と例数を表5に示す。「(　)」内は丁寧体である。

表5　新聞記事における当事者の言動の引用形式と例数

引用形式	だが	しかし	でも	なのに	合計	
直接話法	15	10(2)	15	2	42	19.8%
自由直接話法	14	9	51	2	76	35.8%
自由間接話法	29	19	42	3	93	43.9%
間接話法	1	0	0	0	1	0.5%
合計	59	38(2)	108	7	212(100%)	

表5を見ると、逆接の接続詞の後続文では、自由間接話法の引用形式の使用は212例中93例と約半数であるのに対して、間接話法の引用形式の使用は1例しか見られない。当事者の言動の引用は、「でも」の後続文に出現する傾向が見られる。書き手が当事者の言動を引用する際には、読み手を意識する丁寧体の使用が少ないため、書き手の存在が顕在化しない。書き手の存在を抑えることで、当事者の言動を直接的に読者に見せることができ、記事の体験性が高められる。以下では、逆接の接続詞の文体選択と新聞記事における各話法の特徴について具体的に考察する。

4.4.1　逆接の接続詞の文体選択と直接話法

新聞記事において、直接話法は逆接の接続詞の後続文に42例が出現している。以下の(7)のように、「だが」と「でも」の後続文での出現が多く、各15例見られる。

(7) だが、村上町長は「私を解職すれば医療がうまくいくのか。ほかに方法はない」と態度を変えない。　(2021年6月8日 朝刊　1社会)

4.4.2　逆接の接続詞の文体選択と自由直接話法

新聞記事における自由直接話法は、当事者の発話や思考を地の文に溶け込ませる一人称で表現されており、逆接の接続詞の後続文に76例が出現している。このうち51例と半数以上が「でも」の後続文に出現している。「しかし」と「だが」の後続文にも出現するが、「でも」の後続文には、(8)のように感情感覚的表現、思考認識的表現、モダリティによって当事者の内的態度を表される内容が多く、「しかし」と「だが」の後続文には、(9)のように当事者の視点からの外的事象を表す内容が多く見られる。

(8) 寂しくなったまちに佐野畳屋がある。スタッフは社長で3代目の佐野典久(40)、ただ1人だ。(中略)家に畳部屋が3室だったら、安い中国産にするかもしれない。でも1室だけなら、「国産を」となるんじゃないか。ボクは国産イグサ一本を目指すぞ。　(2021年5月11日夕刊　夕刊解説)

(9)　居場所を何度か変え、ハンさんはいま、名古屋市内でキリスト教系団体のシェルターに身を寄せている。

故郷フンチャック村の実家は、板張りですきま風が入る。農村部では、実家のような木造平屋建ては珍しくない。しかし、周りには最近、日本など海外で稼いだお金で建てた2階建てや3階建てのコンクリートの家も建ち始めている。

(2021年2月2日朝刊　1社会)

(8)と(9)では、当事者の思考と発話を地の文の形式で、書き手の制限を受けることなく直接に再現する。こうすると、記事における当事者が顕在化されるため、当事者が読者に直接に話しかけているような感じが生まれ、読者と当事者との距離が近くなる。

4.4.3　逆接の接続詞の文体選択と自由間接話法

新聞記事において、逆接の後続文に当事者の発話と思考を引用する場合、自由間接話法が最も多く使用され、93例が見られた。そのうち42例と半数近くが「でも」の後続文に出現する。新聞記事における自由間接話法は、(10)のように地の文の形式であり、当事者としての下山田さんの話を引用すると同時に、書き手の存在も感じられる。

(10) 下山田さんは「これまで、生理についての違和感を声に出せてこなかった」と話す。でも、いざ声を上げてみたら、賛同してくれる人、同じように感じていた人が多いことに気付き、力をもらった。　(2021年4月30日夕刊　社会総合)

工藤(1995)は、作中人物の内的意識は、過去形を使用することで作中人物の思考を対象化し、内的と外的の2つの視点から描写されることを指摘している。(10)におい

て、「力をもらった」ということは当事者の内面的な感情であるが、過去形を使うことによって主観的感情を客観化している。このように、当事者と読み手の間には、書き手という媒介が存在する。記事において媒介性は最小限に抑えられているが、文末表現の使用から、媒介性の存在が感じられる場合がある。(10) において、直接話法と自由間接話法を切り替えることで、書き手が当事者と読者の間の距離を調整しようとする意識が見られる。

4.4.4　逆接の接続詞の文体選択と間接話法

新聞記事における間接話法は「だが」の後続文に (11) の1例だけ見られた。間接話法は書き手が自分の認識を地の文に書き込む方法であるため、書き手の介入度が高くなる。記事においては、書き手の認識から当事者の言動を語るより、当事者が自己の体験を話した方が事件の真実性が高くなる。記事の真実性を保つため、間接話法の使用は少なくなると考えられる。

(11) 主催したNPOは、口元が見える透明なマスクの活用を呼びかける。だが理事の尾中友哉(31)はそれだけでは解決しないと言う。

(2021年2月7日朝刊　グローブ7面)

以上のように、書き手は事象を説明する際に、当事者の声を直接的、間接的に引用する場合がある。話法の様式の各範疇間には、逆接の接続詞の文体差が見られる。新聞記事における逆接の接続詞の後続文では、当事者の発話と思考の引用数は、「でも」＞「だが」＞「しかし」の順に多く出現する (表5参考)。「でも」の後続文には当事者の内的態度に反映される情報が出現しやすく、「しかし」の後続文には現実に発生する外的事象の情報が出現する傾向がある。また、書き手は地の文において、当事者の経験を追体験して記述するため、情報源としての当事者の知覚を明示しながら、事件について語る自由間接話法を使用する傾向が見られる。

4.5　逆接の接続詞の文体選択と使用傾向

以上のように、新聞記事における逆接の接続詞の文体混用は、書き手が外的事象を紹介しつつ、書き手あるいは当事者の内的態度を差し挟んでいる内容に出現する傾向が見られる。逆接の接続詞の後続文の内容を見ると、「しかし」の後続文には外的事象を描写する内容が出現しやすく ((9) 参考)、「でも」の後続文には内的態度を表す内容が出現しやすい ((8) 参考)。このように、新聞記事において、書き手が逆接の接続詞の使用を選択する際に、「しかし」は事象面での因果関係の関連性を再現する際に使用する傾向、「でも」は内的心理発話の情報を表現する際に使用する傾向という使い分けが見られる。「だが」はその中間的な性質を持つ。なお、「なのに」は出現数が少ないものの、新聞記事における「なのに」の使用を調査した鐘 (2022) [2)] の結果によれば、「だが」に近い使用傾向であると予測される。新聞記事では、整合すべき情報を取り込んだ上で、逆接の接続詞の個々の性質を利用しつつ、情報を相互に関連付けている。新聞記事

における逆接の接続詞の文体選択の傾向は表6のようにまとめられる。

表6　新聞記事における逆接の接続詞の文体選択と使用傾向

逆接の接続詞の使用傾向	でも	だが（なのに）	しかし
場面描写	詳細な場面描写で出現する傾向	中間的傾向	概略的場面描写で出現する傾向
情報特徴	主観的感情を示す傾向		客観的事実を示す傾向
当事者	顕在化する傾向		潜在化する傾向
書き手の介入度	介入度が低くなる傾向		介入度が高くなる傾向
読み手との距離	読み手と近くなる傾向		読み手と遠くなる傾向

4.6 まとめ

以上、新聞記事における逆接の接続詞の文体混用を分析した。新聞記事において、逆接の接続詞が文体制限から逸脱するという一見異質な現象を、叙法との関わりから分析することで説明することができた。書き手が記事を執筆する際には、書き言葉の文体の規範にそった「しかし」と「だが」が使用される以外にも、書き手の意見と当事者の言動を表す場合に、話し言葉的な文体的特徴を持つ「でも」の使用が見られる。このように、新聞記事において、書き手がどのような文体的特徴を持つ逆接の接続詞を選択するかを論じる際には、書き手の取材内容に対する描写の姿勢の変化を捉えることが重要であろう。

また、新聞記事では情報源として当事者などの言動を引用することで、記事の信憑性を高められる。そして、その際に当事者が顕在化することで、読み手が当事者の心理を覗き見ているような気持ちにさせられ、事件の全体像を多面的に把握することができる。

5. おわりに

本研究では、新聞記事を対象に、異なる文体的特徴を持つ逆接の接続詞が同時に出現する記事を収集し、新聞記事における逆接の接続詞の文体混用について考察した。その結果、新聞記事における逆接の接続詞の文体混用は地方面とオピニオン面の記事に出現する傾向が見られた。また、新聞記事における逆接の接続詞の文体の選択は、記事の内容と当事者の言動の提示の仕方に関係があることを明らかにした。逆接の接続詞の文体をシフトすることで、叙述と叙情を有効に結びつけ、紙面に書かれた記事の場面を再現し、読み手に臨場感を与えることができる。

注

1）英語の話法について、Leech & Short（1981）は以下の5種類に分けている。

①直接話法（Direct Speech）

例：He said, ‘I’ll come back here to see you again tomorrow.’

②自由直接話法（Free Direct Speech）

例：I’ll come back here to see you again tomorrow.

③自由間接話法（Free Indirect Speech）

例:He would return there to see her again the following day.

④間接話法（Indirect Speech）

例：He said that he would return there to see her the following day.

⑤言語行為の語り的報告（Narrative Report of Speech Acts）

例：He promised to visit her again.

なお、本研究では、「言語行為の語り的報告」を間接話法に含めることにする。

2）鐘（2022）で、2019年1月1日―2020年12月31日の新聞記事における「なのに」の使用を調査した結果、記事の地の文における262例の「なのに」の使用が見られ、「なのに」が出現する面名と後続文に出現する内容の傾向は「だが」に近いと考えられた。

参考文献

石黒圭（2008）『文章は接続詞で決まる』光文社新書.

柏野和佳子・田嶋明日香・平本智弥・木田真理（2016）「学術的文章作成時に留意すべき「書き言葉的」「話し言葉的」な語の文献調査」『言語処理学会第22回年次大会発表論文集』,pp.1041-1044.

工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテクスト：現代日本語の時間の表現』ひつじ書房.

栗原優（2007）「新聞記事に見られる「書き言葉」と「話し言葉（口語）」の混同についての一考察」『文化情報学：駿河台大学文化情報学部紀要』14（1）,pp.39-43.

甲田直美（2001）『談話・テクストの展開のメカニズム』風間書房.

塩澤和子（2003）「逆接型 シカシとダガの意味分析試論：朝日新聞「社説」を資料として」『文藝言語研究（言語篇）』43,pp.1-21.

鐘紫儀（2022）「新聞記事における接続詞「なのに」「だのに」の使用について」『国語学研究』（61）,pp.90-103.

田中章夫（1984）「4 接続詞の諸問題：その成立と機能」鈴木一彦・林巨樹（編）『研究資料日本文法 第4巻 修飾句・独立句編 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』,pp.81-123, 明治書院.

馬場俊臣（2018）「接続詞の文体差の計量的分析の試み：『BCCWJ図書館サブコーパスの文体情報』を用いて」『北海道教育大学紀要（人文科学・社会科学編）』69（1）,pp.1-14.

メイナード,K,泉子（2004）『談話言語学：日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』くろしお出版.

Leech,G.N & Short,M.H（1981）*Style in Fiction : A Linguistic Introduction to English Fictional Prose.* Longman.

調査資料：朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル for Libraries」（2022年3月からサービス名は「朝日新聞クロスサーチ」に変更した）

付記：本研究は、JST次世代研究者挑戦的研究プログラムJPMJSP2114の支援を受けたものです。

（東北大学院生）